教育ニュース「響学　共動」 No.８

今週の児童川柳　「暑〜い日は　やっぱﾌﾟｰﾙに　かぎります」（６年生）

平成 22 年６月 28 日　　広島市立吉島小学校

♪ﾊﾟﾃｨｹｰｸﾎﾟﾙｶ♪。この楽曲は休憩時間にながれる児童にはお馴染みの音楽です。体育委員会企画の体育朝会で、この曲に合わせてﾌｫｰｸﾀﾞﾝｽが行われました。異学年の児童がﾍﾟｱｰで踊る姿は、じつに微笑ましい光景でもありました。例えば、１年生をﾘｰﾄﾞしたのは６年生の児童です。１年生の踊り具合をみながら、微笑みを絶やさない姿やあったかいまなざしに、感動をおぼえ人間的な成長をも感じました。どのﾍﾟｱも上学年がやさしくﾘｰﾄﾞし、ﾀﾞﾝｽ終了後には、「疲れちゃったけど、楽しかったよ。お兄ちゃん、お姉ちゃん、ありがとう」の声があがるなど、楽しいひと時となったようです。

また、他の委員会の児童も全児童の学校生活を支えてくれています。この 23 日の給食時間には、図書委員会の児童が今年度初の読み聞かせを、校内放送を通じて行いました。『14 ひきのあさごはん』という絵本の読み聞かせでしたが、絵本の世界の情景、語られる行間まで想像できる、じつに味わいのある読みっぷりで、絵本の世界にすい込まれ、心が豊かに潤う時間となりました。

水泳指導が始まる　ﾌﾟｰﾙｻｲﾄﾞは大にぎやか

今年も水泳指導が始まりました。水に慣れ親しみ、泳力をはぐくむ 10 時間程度の水泳の時間。

どの学年も、水泳時のきまりについて先生から話が。ﾌﾟｰﾙでの水泳を初めて終えた１年生にｲﾝﾀﾋﾞｭｰしました。「ﾌﾟｰﾙが大きく深かってびっくりしました。おもいきり泳げそうです」「ｼﾞｬﾝｹﾝ水かけｹﾞｰﾑが楽しくて、水がこわくなくなりそうです」「大きなﾌﾟｰﾙで、たくさん泳げるようになりたいです」などなど。

他の学年では泳力の挑戦が行われ、１ﾒｰﾄﾙでも長くと児童は懸命に泳いでいました。その姿に「がんばれ、がんばれ」と声援をおくる先生や友だちの姿もありました。めざせ！自己新。

教材を読み深めた後の、児童作文に感動！、読んでわくわく感も

４年生は国語の時間、説明文『ﾔﾄﾞｶﾘとｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ』の読みとりの後、その成果をﾐﾆ作文にまとめました。説明文は、中心となる語や文をとらえ、事実と意見との関係などを考えながら読み深め、筆者の主張や文章構成の工夫について考えることが学習のねらいとなっています。学習のまとめとして書かせた児童のﾐﾆ作文には、読み深めた成果が見事に表れています。

例えば、「重そうなﾔﾄﾞｶﾘ」と題した作文は詩的にまとめられ、「ﾔﾄﾞｶﾘは重そうだ」で始まり、「･･･でも、ﾔﾄﾞｶﾘはｲｿｷﾞﾝﾁｬｸを付けていないとﾀｺに食べられる。でも、ﾔﾄﾞｶﾘは重そうだ。ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸは触手でﾀｺや魚をしびれさせ餌にすることをﾀｺなどはよく知っている。だから、ﾔﾄﾞｶﾘはｲｿｷﾞﾝﾁｬｸを付けているのだ」と続き、「だけど、やっぱり重そうだ」と結ばれている。「重そうだ→でも重そうだ→だけどやっぱり重そうだ」など、児童がﾔﾄﾞｶﾘに自己投影し、ﾔﾄﾞｶﾘの気持ちを豊かに想像・共感しているようすがうかがえる、見事な作文の一つです。感じたことを書きまとめること、習慣化することにより、豊かな感性と共に書く力も高まっているようです。

加えて、児童のﾐﾆ作文には題名にも工夫が。「ﾔﾄﾞｶﾘがｲｿｷﾞﾝﾁｬｸを付けるのは、敵から身を守るためだった」「ﾔﾄﾞｶﾘとｲｿｷﾞﾝﾁｬｸのひみつ」「２匹は敵か、味方か？」「２匹は最高だぞ！！助け合う２人組」「ｲｿﾝｷﾞﾝﾁｬｸが付いているから安心だ」などなど。どのﾐﾆ作文も、読み深めたあかしがみられる力作で、読んでいて「なるほど、なるほどな」とうなずけるものばかりでした。今後も、児童と共に読み深め、その成果を書き記す楽しさを共有していきたいと思います。